

(参考資料3)

経営比較分析表（平成30年度決算）

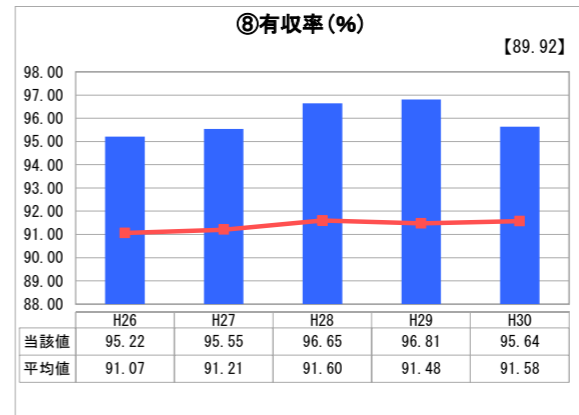
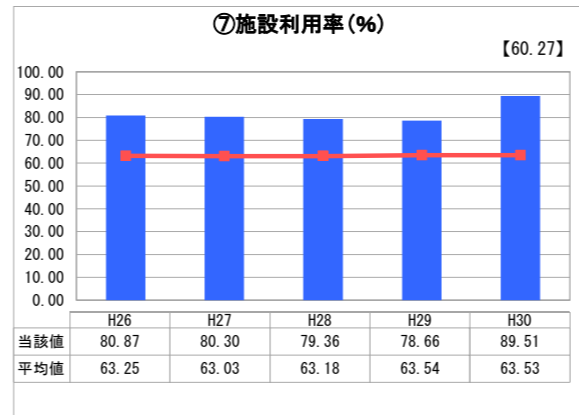
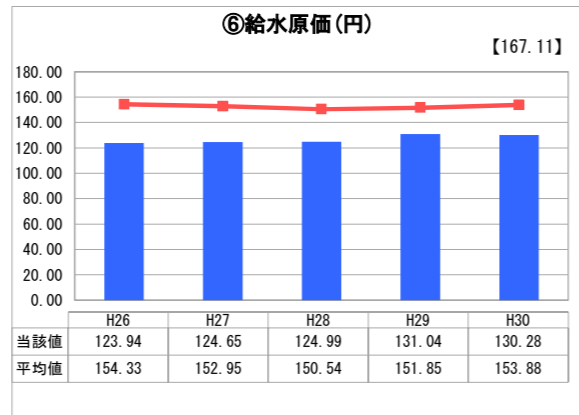
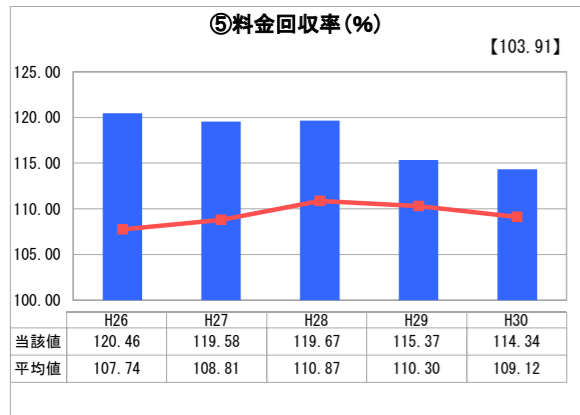
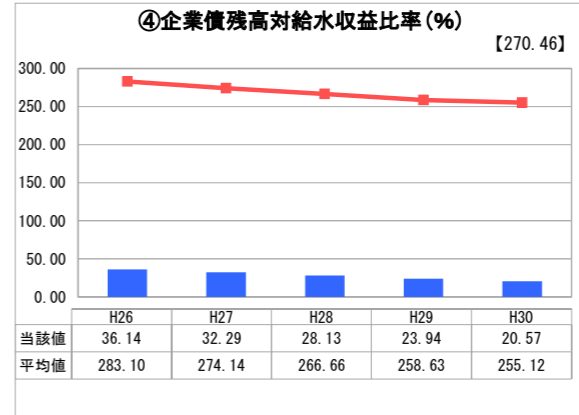
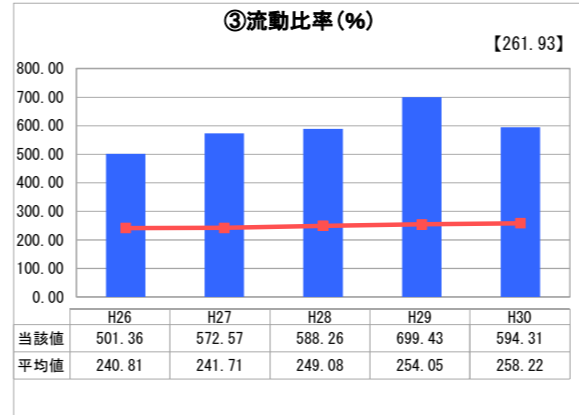
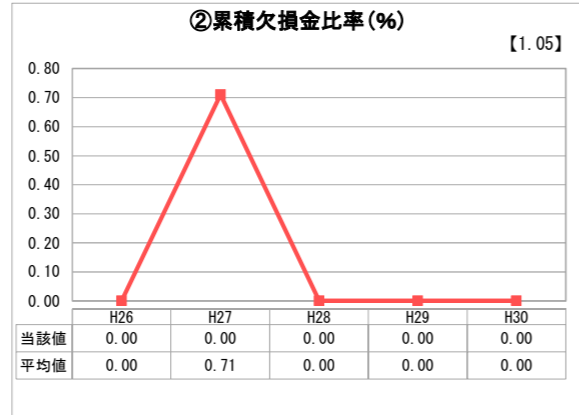
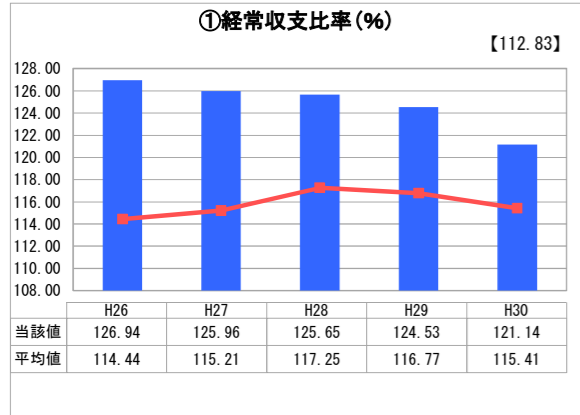
大阪府 高槻市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	94.29	99.99	2,376	

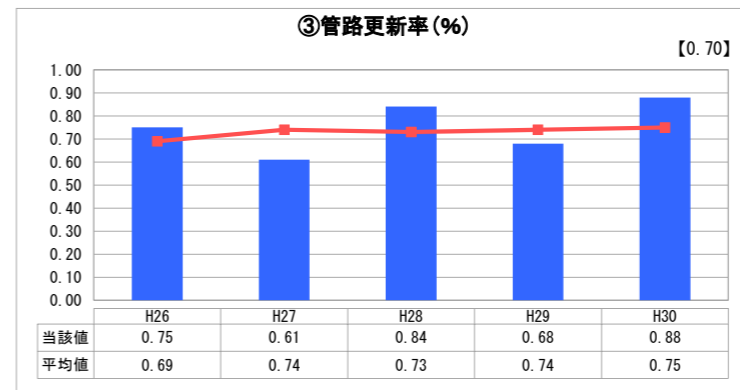
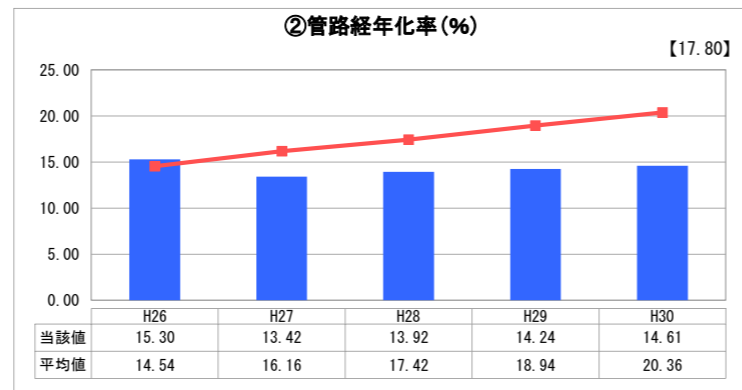
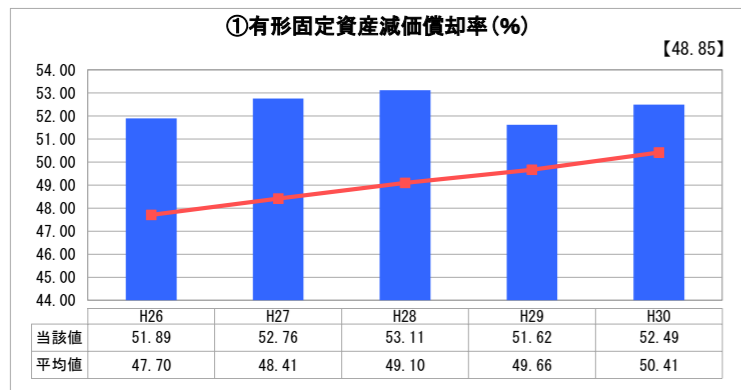
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
352,496	105.29	3,347.86
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
351,675	55.85	6,296.78

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均	

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、100%を上回っており、収支は健全な水準を維持していますが、水需要の減少に伴い、給水収益が減少しているため、経常収支比率についても減少傾向にあります。

② 流動比率は、100%を大きく上回っており、短期債務に対する支払能力を十分に有しています。類似団体平均値と比較して大きく上回っているのは、企業債の新規借入の抑制により、流動負債が少なくなっているためです。

③ 企業債残高対給水収益比率は、平成18年度を最後に、現在に至るまで10年以上企業債新規借入を行わず抑制に努めた結果、類似団体平均値と比較して顕著に少なくなっています。

④ 料金回収率は、100%を上回っており、給水に係る費用を水道料金による給水収益で確保できています。

⑤ 施設利用率は、類似団体平均値よりも高い水準を維持しており、効率的に施設を活用できていますが、水需要の減少に伴い、過去年度と比較して減少傾向にあります。なお、平成30年度に増加しているのは、認可変更に伴い、適正な配水量に見直しを行ったためです。

⑥ 有収率は、80%前半であった昭和50年代から鉛製給水管を計画的にポリエチレン管に取り替える取り組みや継続して行っている漏水調査等により、類似団体平均値よりも高い水準を維持できています。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値よりも高い水準が続いている状況です。なお、平成28年度から平成29年度にかけて減少しているのは、集中監視システム更新に伴う既存設備の除却を行ったためです。

② 管路経年化率は、類似団体平均値の水準を下回っているものの、年々経年化は進んでいる状況です。なお、平成26年度から平成27年度にかけて減少しているのは、管路情報システムデータの整備を行い、管路延長数に比較的経年率の低い口径50mmの管路を含めたことによるものです。

③ 管路更新率は、計画に基づく事業は順調に進捗しているものの、工事箇所によって工事の進めやすさが異なるため各年度の更新延長に差が出ています。

全体総括

現在は健全な状態ですが、施設の老朽化は進んでおり、今後さらに事業費が増加していくと見込んでいます。

当面は自己資金をもって、増大する事業費を賄っていきますが、本市の経営戦略と位置付けている高槻市水道事業経営効率化計画（平成28年度～令和2年度）に基づき、管路や施設の更新・耐震化等を優先度を定めて計画的に実施していきます。